

## 活動報告

## 全学FDワークショップ@生物資源科学部 キャンパス報告

須江 隆\*, 新町文絵, 山下正道, 鈴木由起, 近藤春美, 志澤泰彦

日本大学生物資源科学部

### Whole Faculties FD workshop at College of Bioresource Sciences Report

Takashi SUE, Fumie SHINMACHI, Masamichi YAMASHITA, Yuki SUZUKI, Harumi KONDO, Yasuhiko SHIZAWA

College of Bioresource Sciences, Nihon University

The first “Whole Faculties FD workshop at campus” for the College of Bioresource Sciences was held on September 10, 2018. Eighteen participants were divided into four groups and actively discussed in this workshop. The theme of the workshop is “Solving the problem of the freshman education”. The participants extracted the issues and needs of the freshman education by the KJ-method and decided the significant ability to be learned in the first year by the two-dimensional expansion method, to reach the eight abilities of the Nihon University educational charter. Based on the result extracted, the participants planned the curriculum by discussing the study objectives, learning strategies and evaluations, throughout the discussion at small group work and plenary session.

This report will inform a record of one-day workshop activity, concluded products, and an administration of the workshop. The future development of this FD workshop at College of Bioresource Sciences will also be discussed.

キーワード：FDワークショップ, ファカルティ・ディベロッパー, 教育技法の改善

**Keywords:**

FD workshop, Faculty developer, Improvement of educational technique

### はじめに

生物資源科学部では、教職員の教育支援や教育活動の充実を目的として、FD (Faculty Development) 委員会を設置し、教員の教育能力の向上、教育プログラム・教育システム (カリキュラムや授業評価) の見直しと開発、組織開発 (教育・研究組織点検) などにつとめてきた。本学部では、このような観点から組織的にFD活動を推進し、教員の資質向上と教育環境の充実を図るため、FD活動の一環として、毎年複数回の講演会を主とした研修を実施してきた<sup>1</sup>。しかしこれまでは、簡単なペア・ワーク等を伴うものの、どちらかというと講演を聴くだけの受け身的な研修が多く、長時間にわたっての本格的なワークショップは、殆ど実施されていなかった。そのため、教員の資質の向上やファカルティ・ディベロッパーの養成に資する積極的な活動が不可欠となりつつあった。一方、日本大学では、2013年より「全学FDワークショップ」を

\*E-mail: sue.takashi@nihon-u.ac.jp

投稿：2019年1月29日 受理：2019年2月21日

実施し、カリキュラムプランニングを2日間にわたって行うことを通じて、ファカルティ・ディベロッパーとして、各学部でFD活動を促進する人材の育成をしてきた<sup>2</sup>。

こうした背景に鑑み、生物資源科学部においても、「全学FDワークショップ」で培った資源を基に、本学部における多数のファカルティ・ディベロッパーの養成を目的として、「全学FDワークショップ@キャンパス」を実施することになった。今後、生物資源科学部における教育・研究の改善を担うことができる人材を組織的かつ計画的に育成していくためにも、また本ワークショップを実施した後に、定期的に同ワークショップを展開していくためにも、「全学FDワークショップ@生物資源科学部キャンパス」の開催は、本学部のFD活動において、画期とすべき初めての試みとなった。

本稿では、その試みの「実施概要」「プロダクト概要」「総括」「まとめ」について報告をする。

## 1 生物資源科学部・全学FDワークショップ@キャンパス実施概要

「全学FDワークショップ@生物資源科学部キャンパス」の開催に当たっては、先ず本学部FD委員会で、その開催が提案され、日程、参加対象者、開催要項の内容、実施の形式等についての検討がなされた。その結果、日程については、夏期休暇中の平成30年9月10日（月）の開催とし、参加対象者は、執行部・学科主任を主体として構成されているFD委員会のメンバーとなった。これは本学部で最初の試みであることと、今後の本学部各学科への研修内容の浸透を狙っての措置であった。実施形式については、日程面を考慮して、本部FD推進センターより呈示の「1日開催版」に基づき、【KJ法と二次元展開法】【学修目標】【学修方略】【学修評価】の4つのプログラムを行うこととした。

次いで、嘗て本部で実施された「全学FDワークショップ」等への参加経験者を中心にタスクフォース5名が選任された。また加えて、筆者（須江）はFD委員会副委員長であるのみならず、2016年の「全学FDワークショップ」へは参加者（修了者）として、2017年の同ワークショップへはタスクフォースとして関与した経験もあることから、タスクフォース兼モデレーターとして、5名のタスクフォースとともに本ワークショップに深く関わることとなった。タスクフォース選任者は、7月17日（火）に実施された「タスクフォース養成プログラム」への参加に加え、8月3日（金）と9月5日（火）に行ったミーティング及びリハーサルにおける長時間にわたる綿密な準備・打合せを経て、本番を迎えるに至った。

本ワークショップの実施次第の詳細については、後掲の表1「全学FDワークショップ@生物資源科学部キャンパス2018日程表」を、参加者等については、表2「全学FDワークショップ@生物資源科学部キャンパス参加者及びタスクフォース・運営スタッフ一覧」を参照して頂きたい。

本ワークショップのテーマは、「大学初年次教育における課題の解決に向けて一教育能力の開発を企画・運営できる人材の育成」であり、文字通り、大学初年次教育における諸問題の解決を推進するために、カリキュラム開発能力を発展させる基本的な教育技法とFDを企画・運営できる能力を修得し、生物資源科学部において、生涯にわたる教育への関心を継続させ、ワークショップを展開することができるようにすることを目的としたものであった。本ワークショップは、グループ学修の展開を想定してつくられた111教室において、10時から17時半頃までにわたって実施された。

関泰一郎学務担当による開会挨拶に始まり、参加者18名は、ワークショップの進め方に関する説明を受けた後、A~Dの4~5名からなる4つの班に分かれ、班ごとに自己紹介を行った。次いで【KJ法と二次元展開法】【学修目標】【学修方略】【学修評価】の各セッションにおいて、全体セッションでの説明をタスクフォースから受けた後に、グループ討議を行い、プロダクトを作成した。各班のプロダクトの発表は、2度に分けて行われ、【KJ法と二次元展開法】に関してと、【学修目標】【学修方略】【学修評価】のプロダクト

をまとめた報告がなされ、参加者全員で活発な討論が展開された。最後にタスクフォースマスター・協力オブザーバーとして参加を頂いた3名の方々より総評を頂き、筆者（須江）の挨拶で閉会とした。なお、参加者への修了書授与とプレ・ポストアンケート等の結果配布は、後日とした。

## 2 プロダクト概要

### 1. 【KJ法と二次元展開法】

【KJ法と二次元展開法】を用いて、班ごとに討議を行い、初年次教育の問題点を抽出した。なお、あらかじめ運営側で、「教職員がワークで発掘した初年次教育の最重要の問題点「 」をよく見つけ、日本大学教育憲章の中で「 」を初年次に教育するカリキュラムプランニングを行う。」と記した用紙を用意し、各班には日本大学教育憲章の8つの能力を踏まえた最終的な纏めをしてもらった。各班のプロダクトは、次の通りである。

- A班：教職員がワークで発掘した初年次教育の最重要の問題点「多様な学生」をよく見つけ、日本大学教育憲章の中で「リーダーシップ・協働力」を初年次に教育するカリキュラムプランニングを行う。
- B班：教職員がワークで発掘した初年次教育の最重要の問題点「教育方針の共有」をよくはかり、日本大学教育憲章の中で「論理的・批判的思考力」を初年次に教育するカリキュラムプランニングを行う。
- C班：教職員がワークで発掘した初年次教育の最重要の問題点「入学する学生の問題（背景）」をよく見つけ、日本大学教育憲章の中で「問題発見・解決力」を初年次に教育するカリキュラムプランニングを行う。
- D班：教職員がワークで発掘した初年次教育の最重要の問題点「学生の差」をよく見つけ、日本大学教育憲章の中で「(未記入)」を初年次に教育するカリキュラムプランニングを行う。

### 2. 【学修目標】【学修方略】【学修評価】

引き続き【KJ法と二次元展開法】のセクションで抽出された初年次教育の問題点に鑑みて、日本大学教育憲章のある能力に即したカリキュラムプランニングを各班で実習した。各班が設定した授業科目は、A班が「個性を伸ばすキャリア形成」（受講者数：未詳）、B班が「生物資源科学を学ぶためのスタディスキルズ」（受講者数：150名）、C班が「学生生活向上のための藤沢学」（受講者数：300名（3学科混成）、1班10名で30班編成）、D班が「挑戦する生物資源科学」（受講者数：100名（全学科選択可））であった。

ここでは紙幅の関係で全ての班のプロダクトを紹介できないので、生物資源科学部の特色があらわれているB班の成果を例示しておく。

B班 授業科目：「生物資源科学を学ぶためのスタディスキルズ」（受講者数：150名）

【学修目標】

一般目標：生物資源科学を通して大学で学ぶ意義を理解する

NO.	行動目標 (SBOs) (領域)
①	科学に基づいた思考及び行動力を身に着ける (態度・習慣)
②	大学で研究が必要な理由を説明できる (態度・習慣)
③	一つの事を多面的に見ることができる (態度)
④	人の意見を聞くことができる (態度)
⑤	自分の考えを的確に伝えることができる (技能)
⑥	批判的な意見を述べるができる (技能)
⑦	生物資源科学部で生物資源の生産・利用に関する科学を学ぶ意義を説明できる (知識・解釈)
⑧	生物資源科学部で生命科学を学ぶ意義を説明できる (知識・解釈)
⑨	生物資源科学部で環境科学を学ぶ意義を説明できる (知識・解釈)
⑩	大学での学びとは何か説明できる (知識・解釈)

【学修方略】

LS	行動目標 (SBOs)	種類	授業回数	人的資源	物的資源		コマ数	予算
					場所	媒体		
1	①	講義	1, 3	教員×2名	講義室	講義室	2	
2	②	事例検討	2, 4	教員2名, TA×5名	ALS	WB, 円卓, スクリーン	2	50000円
3	③, ④	SGD	5, 6	教員×5名, TA×5名	ALS	WB, 円卓, スクリーン	2	50000円
4	⑤, ⑥	SGD	7, 8	教員×5名, TA×5名	ALS	WB, 円卓, スクリーン	2	50000円
5	⑦, ⑧, ⑨	講義	9, 10, 11	教員×3名	講義室	講義室	3	
6	⑩	SGD	12, 13, 14, 15	教員×3名, 外部講師×3名	ALS	WB, 円卓, スクリーン	4	150000円

## 【学修評価】

行動目標 (SBOs)	目的	対象領域	授業回数	方法	評価者
①	形成的	態度・習慣	1, 3	観察記録	自己・受講者
②	形成的	態度・習慣	2, 4	観察記録	自己・受講者
③	形成的	態度	5	観察記録	教員・TA
④	形成的	態度	6	観察記録	教員・TA
⑤	形成的	技能	7	実地試験	教員
⑥	形成的	技能	8	実地試験	教員
⑦	形成的	知識・解釈	9	論述試験	教員
⑧	形成的	知識・解釈	10	論述試験	教員
⑨	形成的	知識・解釈	11	論述試験	教員
⑩	形成的・総括的	知識・解釈	12,13,14,15	観察記録・論述	教員

## 3 総括

最後に、全てのセッションの終了後に実施された「評価アンケート」および「ワークショップ総合評価アンケート」の集計結果に鑑みて、本ワークショップの総括としたい。

## 1. 評価アンケート集計結果

「評価アンケート」の質問は7項目から成っており、Q1～Q4が5段階の尺度からの選択方式、Q5～Q7が自由記述となっていた。Q1～Q4の質問項目とその回答の集計結果は下表の通りであった。尺度の5が最高値で、1が最低値、3が中程度を示していた。下表より明らかなように、何れの項目も中程度の3未満を選択した参加者は少数で、参加者の8割程度が本ワークショップの参加に対して、消極的な姿勢ではなく、ほぼニーズにもマッチし、タスクフォースの仕事ぶりにも好印象を持ってもらえたようである。

質問項目	1	2	3	4	5
Q1.今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。	0%	17%	28%	44%	11%
Q2.今日あなたは討議にどの程度参加されましたか。	0%	5.5%	50%	39%	5.5%
Q3.今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。	0%	22%	22%	39%	17%
Q4.今日のタスクフォースの仕事は良かったですか。	0%	17%	22%	50%	11%

Q5の「今日、よく理解できたことは何でしたか。」の問いに対しては、「学修目標の設定」「試験等とその評価方法」「客観的評価方法のオープン化の必要性」「ワークショップの意義と方法」「GIOとSBOs」「カリキュラムの組み立て方や考え方」「初年度教育の意義」「用語の意味」といった記述が見え、本ワークショップの効果が多くの参加者に浸透したことが窺える。反面、「カリキュラム作成の大変さ・煩雑さ」「評価の難しさ」「初年次教育に対する教員の考え方の違い」「まとめ役となる教員の不在」などが理解できたとする記述もあり、あらためてカリキュラムプランニングの難しさを痛感した参加者もいたようであり、その不安を取り除くための改善が必要であることも示唆された。Q6の「今日、あまり理解できなかったことは何でしたか。」の問いに対しては、「専門用語の理解・定義」など用語に関するもの、「形式的評価と総括的評価の対比」「評価方法の客観性」「総括評価と形成的評価の関係」「学修方略と学修評価の関係」など評価方法に関するものの他、「SBOsの命令形と試験問題の関係」「LSごとにSBOsを組む意味」などがあつた。総じて用語や学修評価への理解が難しかったようである。Q7の「その他のご意見(何なりとご自由に)」については、「用語の特殊性にとまどった。」「考える時間が少なすぎる。」「今後のシラバス作りに行動変化をもたらしたいなら、実際にシラバスを作った方が良い。」「ある程度の予備知識を持ってから実習した方がよいだろう。」などといった今後のFD活動に資する意見や、「多くの教員にこのFDを受けてもらおうと思う。」といった本ワークショップの今後の更なる展開を後押しする意見もあつた。大いに参考すべきである。

## 2. ワークショップ総合評価アンケート集計結果

「ワークショップ総合評価アンケート」の質問は6項目から成っており、Q1とQ2が尺度からの選択方式、Q3～Q6が自由記述となつていた。Q1の「今回のワークショップにおける次の項目のうち、修得度はいかがでしたか。」の集計結果は、下表の通りである。何れの項目も「理解はできたが、応用力は不十分」が半数前後を占めるが、総じて理解度はかなり高かつたことが窺える。反面、矢張りここでも「学修評価」については理解できなかったとする参加者が他項目に比して多かつた現象が見えるのに加え、カリキュラムプランニングで精一杯で、FDの企画・運営面にまでは目がいかなかつた参加者が複数いたことも示唆している。

項目	尺度		
	理解できなかった	理解はできたが、 応用力は不十分	十分な応用力が 得られた
1) 教育の原理・あり方	12%	59%	29%
2) カリキュラム立案の手順	6%	59%	35%
3) 学修目標の立て方	0%	71%	29%
4) 学修方略の立て方	6%	59%	35%
5) 学修評価の立て方	24%	47%	29%
6) FDの企画・運営	29%	53%	18%

Q2の「今回のワークショップを全般的に評価してください。」についての集計結果は、次の通りで、時間量と難易度を除いては概ね高評価であつた。特に内容の価値と今後の教育への修得技法の導入に関しては、8割以上の参加者から賛同が得られており、本ワークショップ開催の意義を十二分に確信できた。

### 1) 内容の価値について

価値なし0%、やや価値あり18%、かなり価値あり65%、極めて価値あり18%

### 2) 内容に対する時間量について

多すぎる6%、やや多い41%、ほぼ適当35%、やや少ない6%、少なすぎ12%

## 3) 内容の難易度について

極めて難しい0%, やや難しい53%, ほぼ適当41%, やややさしい6%, やさしすぎ0%

## 4) このような教育学的技法を、今後取り入れてみようと思うか。

取り入れない12%, 少し取り入れてみたい47%, 取り入れてみたい41%

## 5) この規模のワークショップを持続することについて

必要ない12%, どちらでもよい47%, ぜひ必要41%

Q3の「今回のワークショップで、よかったと思われることをお書きください。」に対する回答で最も多かったのは、「他学科の教員との意思を確認できた。」「様々なグループの意見を聞くことで視野が広がった。」など、多様な教員とコミュニケーションをとれたという点であった。12学科を擁する本学部の場合、学科間の日常的なコミュニケーション不足が潜在していることが窺えた。またタスクフォースの仕事ぶりを称賛する意見が複数あったことも付言しておきたい。他に「シラバス作成方法についてよく理解できた点。」「学修の目標・方略・教育評価方法等が整理できた。」「ワークショップ自体、グループワークそのものが良かった。」など本ワークショップの効果を実感できたとする記述も複数あった。一方、Q4の「今回のワークショップの問題点と思われることをお書きください。」については、「時間のタイトさ」など時間配分や時間不足に関する点と、「専門用語が難しい」など用語理解（解釈）への言及が多数にのぼった。次回以降の本ワークショップの開催に向けた改善点とすべきである。

Q5の「その他のご意見をご自由に」に対しては、「本内容を学科へ届けられるか不安。」などの意見があった。そして最後のQ6「今後1年間に、あなたが実施したいと考えていることは何ですか。」については、「学修方略について、カリキュラム、シラバスに反映させる。」や「自分の15回の担当授業科目の教育方法を変えていくこと。」「本日の資料を見直して授業を組み立てたい。」「シラバスの改善」など、矢張り本シンポジウムの効果を見て取れる前向きな意見が複数あった。

## ま と め

折しも今年度、本学部では、次年度の授業用シラバスの様式を大幅に見直すことになった。また10月には、芝浦工業大学教育イノベーション推進センターの榊原暢久教授を招聘して「授業設計の基本—学生の学修を促すシラバスの書き方—」というテーマで「第1回FD研修会」を実施した。こうした状況の中での本ワークショップの開催は、まさしく時宜を得た好企画となったことは言うまでもない。加えて総括で分析したアンケート結果からも、この企画が効果的であったことも実証された。但し、今回の本ワークショップへの参加対象者は、最初の試みであったため、本学部の執行部や学科主任を中心としたFD委員会のメンバーに過ぎなかった。従って今後は、本学部のより多くの教職員に、このワークショップの趣旨や内容を如何に浸透させていくべきであるのかが肝要となる。本ワークショップで培った資源を有効活用しつつ、定期的に関ワークショップを展開していけるような土壌を醸成していきたい。

## 謝 辞

本シンポジウムの開催に当たり、松戸歯学部河相安彦教授、歯学部の菅野直之准教授、本部学務課の後藤裕哉課長補佐には、生物資源科学部キャンパスに遠路お越し頂き、貴重なご意見やご助力を賜った。ここに心より感謝申し上げます。

## 注

1. 日本大学生物資源科学部のホームページ「ファカルティ・ディベロプメント (FD)」のところに, 平成 20 年度からの「FD 活動記録」が掲載されているので, 参照されたい。
2. 河相安彦・高島 亨・後藤裕哉 (2018) を参照。

## 引用・参考文献

河相安彦・高島 亨・後藤裕哉 (2018), 「全学 FD ワークショップ 5 年間の総括—大学教育における課題の解決に向けて—」『日本大学 FD 研究』第 6 号, 27-45 ページ。

表 1 「全学 FD ワークショップ@生物資源科学部キャンパス 2018 日程表」

時刻	次第	担当者・タイムスケジュールなど
9:45~10:00	受付	教務課
10:00	開会式 ワークショップの進め方 グループ別自己紹介	PL SGD SGD 司会：須江教授 挨拶：関学務担当 10:00~10:05 説明：須江教授 10:05~10:12 (7分) プレアンケート記入・回収
10:20	【KJ 法と二次元展開法】 初年次教育の問題点	PL SGD 説明：新町教授 10:20~10:35 (15分) グループ討議 10:35~11:25 (50分) 発表・討議 11:25~11:45 (5分×4) 発表 3分, 討議 2分
11:45	昼食	11:45~12:30 (45分)
12:30	【学修目標】	PL SGD 説明：山下准教授 12:30~12:45 (15分) グループ討議 12:45~13:35 (50分)
13:35	【学修方略】	PL SGD 説明：鈴木専任講師 13:35~13:50 (15分) グループ討議 13:50~14:50 (60分)
14:50	休憩	14:50~15:00 (10分)
15:00	【学修評価】	PL SGD 説明：近藤専任講師 15:00~15:15 (15分) グループ討議 15:15~16:15 (60分) 発表・討議 16:15~17:07 (13分×4) 発表 10分, 討議 3分
17:10	閉会式	PL 司会：須江教授 総評：河相教授, 菅野准教授, 後藤学務課長補佐 閉会挨拶：須江教授 (3分) アンケート記入・回収



表2 「全学FDワークショップ@生物資源科学部キャンパス参加者及びタスクフォース・運営スタッフ一覧」

【参加者】(修了者) 18名

所属	氏名	資格・役職	班	
生物資源科学部	動物資源科学科	小泉 聖一	教授・学科主任	A
生物資源科学部	食品ビジネス学科	宮部 和幸	教授・学科主任	A
生物資源科学部	諸課程	眞邊 一近	教授	A
生物資源科学部	一般教養	錦織 千鶴	助教	A
生物資源科学部	食品生命学科	竹永 章生	教授・学科主任	B
生物資源科学部	生命化学科	関 泰一郎	教授・学務担当	B
生物資源科学部	応用生物科学科	加野 浩一郎	教授・学科主任	B
生物資源科学部	森林資源科学科	堀江 亨	教授・学科主任	B
生物資源科学部	生命化学科	中川 達功	准教授	C
生物資源科学部	海洋生物資源科学科	朝比奈 潔	教授・学科主任	C
生物資源科学部	くらしの生物学科	安齋 寛	教授・学科主任	C
生物資源科学部	獣医学科	山谷 吉樹	教授	C
生物資源科学部	動物資源科学科	川井 泰	准教授	C
生物資源科学部	森林資源科学科	阿部 和時	教授・就職指導担当	D
生物資源科学部	海洋生物資源科学科	松宮 政弘	教授・企画広報担当	D
生物資源科学部	生命農学科	大澤 啓志	教授	D
生物資源科学部	獣医学科	伊藤 琢也	教授	D
生物資源科学部	国際地域開発学科	松本 礼史	教授・専攻主任	D

【タスクフォース・運営】6名

所属	氏名	資格・役職	
生物資源科学部	一般教養	須江 隆	教授・FD委員会副委員長
生物資源科学部	くらしの生物学科	新町 文絵	教授
生物資源科学部	くらしの生物学科	山下 正道	准教授
生物資源科学部	獣医学科	鈴木 由紀	専任講師
生物資源科学部	くらしの生物学科	近藤 春美	専任講師
生物資源科学部	諸課程	志澤 泰彦	専任講師

【タスクフォースマスター・協力オブザーバー】3名

所属	氏名	資格・役職
松戸歯学部	河相 安彦	教授
歯学部	菅野 直之	准教授
本部学務課	後藤 裕哉	課長補佐

【企画・運営】5名

所属	氏名	資格・役職	
生物資源科学部	教務課	宮武 康弘	教務課長
生物資源科学部	教務課	横地 慶太	教務課長補佐
生物資源科学部	教務課	宮崎 潤子	主任
生物資源科学部	教務課	成瀬 亜希子	課員
生物資源科学部	教務課	福田 隆宏	課員



本ワークショップの風景